

d. 地域の復興と地域の活性化を総合力で支援 地域・社会貢献活動

能登半島地震被災者の健康被害を調査する学生。



研究・調査の内容はパネル展などで紹介された。

【能登半島地震支援活動】

本学では、地震当日に学術調査部会を立ち上げ、現地入り。災害に関する研究・調査と被災者支援を行いました。

【能登里山マイスター養成プログラム】 *Joint!*

プログラムをつうじて、環境に配慮した農林水産ビジネスを展開する次世代の地域リーダーを育成します。



自分たちが育てた野菜や地元食材を使い調理。試食会を行った。

珠洲市「里山マイスター能登学舎」で演習に取り組む受講生。



e. 毎日の学生生活の中でリサイクル&リユース サプライチェーン活動

【金沢大学生協の環境活動】 *Joint!*

自動販売機飲料の紙カップと、弁当「ホッがる」の容器をデポジット方式で回収。リサイクルを推進しています。

【学生活動】

3月には、ボランティア学生が卒業生から家電製品や家具を引き取り、新入生に提供するリユース市を開催。冬季には、金沢市内で「雪かきボランティア」を行っています。



家電製品や家具などを安価で入手できるリユース市は毎年大盛況。

栄養とエコアイデアが詰まったランチボックス「ホッがる」。食べ終わったらシートをはがしてセロハン部分と紙部分に分けることができる。回収所へ返却すると10円が戻ってくる。



金沢大学環境方針

〔基本理念〕

金沢大学は、総合大学のもつ多様性を個性的に発揮することで、21世紀の時代を担う有為な人材の育成と知の創成に努めることとしている。地域における知の拠点である本学が、このような目的をもって教育・研究・診療・社会貢献等の活動を推進するために、将来の世代と地球に対する責任を自覚し、人間と自然との調和・共生を柱とした環境方針を掲げるものとする。

〔基本方針〕

- 1 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境問題を意識し、環境保全に貢献する人材の育成と研究の推進に努める。
- 2 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を順守する。
- 3 金沢大学は、本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・分析し、化学物質の安全管理、廃棄物の適正処理、資源・エネルギーの使用量削減や再利用・再資源化等に積極的に取り組むことにより、環境負荷の低減に努める。
- 4 金沢大学は、環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発と普及に努める。
- 5 金沢大学は、以上の環境方針を実現するための総合的なマネジメントシステムを構築し、継続的に目的・目標を定め、全ての大学構成員が協力して、その達成に努める。

平成20年4月1日

金沢大学 学長 **中村信一**

〔環境マネジメントシステム〕

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。



金沢大学エコアクション2008
金沢大学環境報告書2008ダイジェスト
平成20年9月発行

報告対象期間：平成19年度（平成19年4月～平成20年3月）
発行：金沢大学
お問合せ先：金沢大学 施設管理部 安全環境課
〒920-1192 金沢市角間町
TEL.076-264-5145 FAX.076-234-4033
e-mail kankyo@ad.kanazawa-u.ac.jp

「金沢大学環境報告書2008」の本編は金沢大学ホームページでも公開しています。
http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kankyo/2008.pdf



金沢大学 エコアクション 2008

金沢大学環境報告書2008ダイジェスト

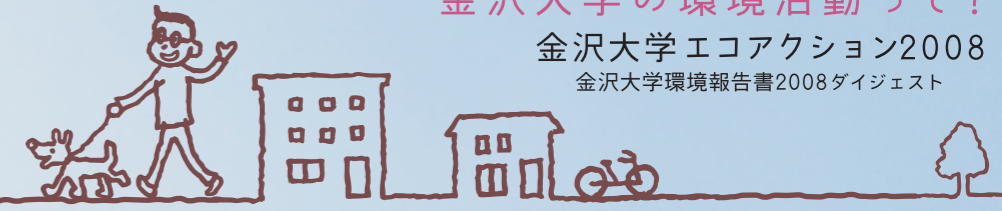
KANAZAWA UNIVERSITY
ENVIRONMENTAL MANAGEMENT REPORT 2008



大切な地球と暮らしを守るため、
キャンパス、地域、世界をフィールドに、
さまざまな活動を展開しています。

学生と教職員がともに取り組む、
金沢大学の熱いチャレンジを紹介します。





a. 幅広い学問の領域で環境問題に取り組む 環境教育と研究

【環境教育の充実】

金沢大学では、共通教育、専門教育、大学院教育において200以上の環境関連科目を開講しています。

【環境およびエネルギー研究】

医薬系、自然系、人文系など、さまざまな分野の研究が進行。研究論文、学位論文、特許出願も年々増加しています。

【附属学校園の環境に関する教育】

5つの附属学校園で発達に応じた環境教育を実践。自然体験、エコ活動、クリーン活動、食育などを展開しています。

【低炭素社会の実現のための研究】

「高効率なCO₂ガス回収・固定化システムの開発研究」などCO₂排出量削減のための研究に取り組んでいます。

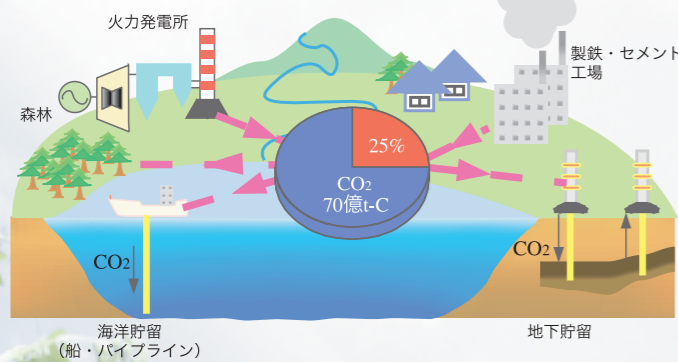


「もやすごみ」「もやさないごみ」など、分別の習慣を身に付けるためのゴミ箱(附属幼稚園)。



たけのご掘りの様子。教員をめざす学生もボランティアとして参加。

CO₂の分離・回収・固定をあらわすカーボンサイクル



b. 学生、教職員が自由に意見交換 環境コミュニケーション

【金沢大学の環境月間】

6月は「金沢大学環境月間」。大学全体で美化や植樹を実施しました。夏季には省エネルギー啓発チラシを配布しました。

【環境講演会の開催】

環境方針を学内に浸透させるために開催。環境への取り組み事例紹介と、専門家による講演が行われました。

【環境報告書についてのアンケート】

「金沢大学環境報告書」のダイジェスト版を新しく発行。学内アンケートでは、回答者の9割近くが環境マネジメントシステムを高く評価しています。

【学生と教職員の意見交換会】

環境方針の周知、省エネ活動、学内のエコマナー、100円バス、リユース市など、多方面から意見が出ました。



製品評価技術基盤機構の御園生理事長による環境講演「持続的社会的のための化学の役割とグリーンケミストリー」の様子。



角間キャンパスと周辺地域を結ぶ「100円バス」。

学生、教職員がともに汗を流した植樹活動。



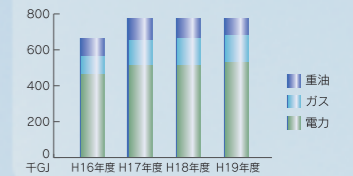
角間キャンパスの自然科学棟に設置された太陽光発電装置。本学では、太陽光発電や風力発電によるクリーンエネルギーも活用しています。

c. 環境負荷の少ないキャンパスづくり 環境への配慮

【エネルギー消費】

平成19年度は電気および都市ガスの消費量が増加し、重油の消費量が減少。その結果、エネルギーの総消費量は前年比で約1%の増加となりました。今後も、夏季一斉休業、冷暖房の稼働時間短縮、室内温度設定の徹底など、省エネルギー活動を継続していきます。

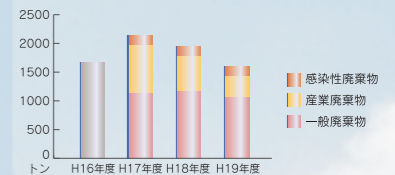
要因別エネルギー消費量の推移



【廃棄物の排出抑制と再資源化】

教育、研究、診療活動で発生した廃棄物は分別回収を徹底。回収したもののうち古紙とペットボトルは9割以上リサイクルされています。

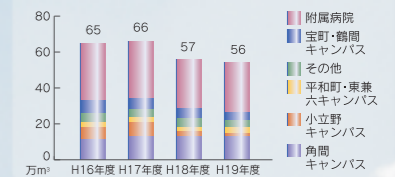
廃棄物発生量の推移



【水資源の節約】

平成19年度の年間水使用量は約56万m³で、18年度と比較して約2%減少しました。節水活動をさらに推進します。

上水(市水・井水)使用量



【化学物質の適正管理】

化学物質の管理体制を整備。危険有害性項目の絵表示や、排出・移動量調査を実施しています。

【温室効果ガスの排出抑制】

角間キャンパスでは、自家用車を通勤通学に使う人が多くなっていますが、環境活動の推進により、平成19年度の駐車許可証の発行数と平均駐車場利用台数は前年より減少。通勤通学におけるCO₂排出量を試算すると、金沢大学におけるCO₂排出量の約1.4%に相当しました。さらに削減をめざすためにバスの利用を促進しています。

角間キャンパスでの駐車許可証発行数と駐車場利用台数

	駐車許可証発行数			駐車場利用台数	
	教職員(人)	学生(人)	合計(人)	平均(人)	最高(人)
平成18年度	936	2,301	3,237	2,346	2,754
平成19年度	932	2,154	3,086	2,100	2,877

角間キャンパスでの通勤通学によるCO₂排出試算

	教職員(t-CO ₂)	学生(t-CO ₂)	合計(t-CO ₂)
平成18年度	2,086	3,366	5,452
平成19年度	2,077	3,151	5,228

【試算条件】

- 学生の平均通学距離を15km、車の燃費を10km/ℓとする。
- 教職員の平均通勤距離を20km、車の燃費を10km/ℓとする。
- 年間通勤通学日数を学生210日、教職員240日とする。
- ガソリン1ℓ当たりのCO₂概算係数は2.322kg-CO₂/ℓを使用する。